

東京ミッドタウンの次世代を担うデザイナー / アーティストを発掘・応援するコンペ

## 「Tokyo Midtown Award」<デザインコンペ> 過去受賞作 4 作品の商品化が決定！

2014 年度受賞作品 『kokki』・『おみく枝』・『origami tale』

2013 年度受賞作品 『切手用はがき』

東京ミッドタウン(事業者代表 三井不動産株式会社)は、『“JAPAN VALUE(新しい日本の価値・感性・才能)”を創造・結集し、世界に発信し続ける街』を目指す一環として、アートとデザインのコンペティション「Tokyo Midtown Award(東京ミッドタウンアワード)」を2008年より毎年開催しています。

<デザインコンペ>では、テーマに基づいた自由な発想でのデザインを募り、受賞作品には商品化に向けた全面的なサポートを行っており、この度、一挙に4作品の商品化が決定いたしました。2014年の受賞作品から『kokki(コッキ)』、『おみく枝(オミクジ)』、『origami tale(オリガミ テイル)』の3作品が、そして2013年の受賞作品からは『切手用はがき』の商品化が決まりました。

「Tokyo Midtown Award」デザインコンペの商品化・イベント化作品は、計13作品となります。代表作としては、2008年に審査員特別賞を受賞した「富士山グラス(鈴木啓太)」や、2013年年末に発売した「歌舞伎フェイスパック(小島梢)」が2014年度グッドデザイン賞を受賞するなど、各デザイナーは活躍の場を広げています。



▲Tokyo Midtown Award 2014  
優秀賞 「kokki」(山本 悠平)



▲Tokyo Midtown Award 2014  
水野学賞 「おみく枝」(土屋 寛恭)



▲Tokyo Midtown Award 2014  
小山薫堂賞 「origami tale」(遠藤 可奈子)



▲Tokyo Midtown Award 2013  
小山薫堂賞 「切手用はがき」(福嶋 健吾)

※各商品の詳細は次頁をご参照ください。

■掲載時の一般の方のお問い合わせ先■ 東京ミッドタウン・コールセンター TEL : 03-3475-3100

■東京ミッドタウンホームページ■ [www.tokyo-midtown.com](http://www.tokyo-midtown.com)

■Tokyo Midtown Award 2015 ホームページ■ <http://www.tokyo-midtown.com/jp/award/>

Tokyo Midtown Award 2014 <デザインコンペ>は、「和える」をテーマに募集しました。

日本の文化と素材をかけあわせ、新たな価値を提案した作品が受賞した中から、3 作品の商品化が決まりました。

## 【kokki】(食器)

世界共通で認識される 4 種類の国旗を形取った器です。

様々な国の料理を、様々な国の国旗に盛り付けることで、国境も文化も隔たりなく卓上で和えることができます。混ぜ合わさることで、普段口にしていない料理、あるいは普段気にしていない国のアイデンティティーを意識できるかもしれません。

### <商品概要>

- 商品名 : kokki (コッキ)
- 価格 : 各 1,700 円・税別予定
- 賞 : 「Tokyo Midtown Award 2014」デザインコンペ 優秀賞
- 販売元 : 小田陶器株式会社
- 販売店舗 : 中川政七商店街ほか
- 販売開始 : 2015 年 12 月 24 日(予定)
- 素材/サイズ : 美濃焼(磁器)/サイズ W200×D132×H20mm
- 作家 : 山本 悠平 (やまもと ゆうへい)



プロダクトデザイナー。2000 年金沢美術工芸大学製品デザイン専攻卒  
<作家コメント>

今回 kokki を商品化できることを大変うれしく思います。

Food knows no borders.

「食に国境はない」を表現したこの kokki でいつもの食事にストーリーが加わります。世界中の食文化が入り混じる感覚を楽しんでください。



▲イメージ

### <審査員 佐藤卓 選考時コメント>

食べる時に、こんなに国を意識するお皿が今まであったでしょうか。国には国境があり、その境界線によって分けられています。つまりそもそも和えることなどできない線というものが引かれているわけです。その国の象徴である国旗を、こんなに楽しく和えることができるお皿にしてしまったアイデアが素晴らしい。そもそも人や食べ物や文化は、歴史上、国を超えてさまざまに和えられてきました。実現性の高い素晴らしいアイデアだと思います。

## 【origami tale】(折り紙)

「origami tale」は、折り紙と物語を和えた作品です。紙を折る事で、物語を追って展開していきます。紙という平面の物を折る事で立体へと変化させる。その変化の中に、いつもの折り紙とは違った驚きや、わくわくした気持ちを感じていただけます。

### <商品概要>

- 商品名 : origami tale (オリガミ テイル)
- 価格 : 1,300 円・税別予定/25 枚入り
- 賞 : 「Tokyo Midtown Award 2014」デザインコンペ 小山薫堂賞
- 販売元 : 株式会社扶桑社
- 販売店舗 : 全国書店、文具店
- 販売開始 : 2015 年 11 月 30 日(予定)
- 素材(サイズ) : B5 変型、36 頁(175×175mm)、付録として折り紙 5 種類各 5 枚(160×160mm)
- 作家 : 遠藤 可奈子(えんどう かなこ)



福島県団体職員。2014 年東北芸術工科大学デザイン工学部グラフィックデザイン学科卒業  
<作家コメント>

この度はたくさんの方にサポートしていただき、この作品を商品化する事ができました。本当にありがとうございます。いつもの折り紙に少し違うワクワクが生まれる。そのワクワクをお子さんから大人の方まで幅広い方々に楽しんでいただけたらと思います。



▲イメージ

### <審査員 小山薫堂 選考時コメント>

この作品を見た瞬間、素直に「やられた！」と思った。白雪姫を折ったらリンゴが完成する・・・物語と折り紙を和えたことで、想像のさらなる広がりが生まれる。これこそ、和えるというテーマを最もチャームングに表現した作品だと思った。ただ、これをストレートに商品化して売れるかどうかは別である。絵本の付録くらいがふさわしいのかもしれない。でも僕は、この発想に大きな拍手を送りたい。

**【おみく枝】(楊枝)**

「料理に小さな驚きをそえる。」

受験や部活を頑張る子どものお弁当に。おせちといった特別な料理に。誕生会などのパーティに。楊枝と「おみくじ」を和えたこの小さなアイテムが、ちょっとした驚きを与えます。

木材は北海道で白樺をひとつずつ成形し、「大吉」「中吉」の文字は鯖江にて漆のスタンプを押して仕上げました。

**<商品概要>**

- 商品名 : おみく枝 (オミクジ)
  - 価格 : 1,800円・税別予定/50本入り
  - 賞 : 「Tokyo Midtown Award 2014」デザインコンペ 水野学賞
  - 販売元 : 株式会社中川政七商店
  - 販売店舗 : 中川政七商店街ほか
  - 販売開始 : 2015年12月上旬(予定)
  - 素材(サイズ) : 白樺、漆/瓶:径50×100mm、おみく枝 16×70mm
  - 作家 : 土屋 寛恭(つちや ひろやす)
- 会社員。2011年千葉大学大学院工学研究科デザイン科学専攻卒



▲イメージ

**<作家コメント>**

料理に驚きという味をそえる「おみく枝」が皆様の気持ちに少しでも刺されれば、これほど嬉しいことはありません。シンプルでありながら商品化が難しく中川政七商店様はじめ多くの方にご協力いただき本当にありがとうございました。特別な日も普段の料理やお弁当にも「おみく枝」のある毎日是非お楽しみください。

**<審査員 水野学 選考時コメント>**

持ち手側に「くじ」があるものは見たことがあるが、刺す側に「くじ」がある物を見たことが無かった。たったそれだけの逆転の発想が、これほどまでに人を楽しませしてくれるのかと感心した。これは何とも楽しい発想である。食べ物を口へ運ぶという単純な動作をデザインした、素晴らしい作品。「おいしい」だけでなく、「大吉を引き当てたなら」「うれしい」。まるでその食べ物自体が幸運をもたらしてくれるかのようである。必ずや商品化してほしい。

## Tokyo Midtown Award 2013 受賞作品

Tokyo Midtown Award 2013 <デザインコンペ>は、「まん中」をテーマに募集しました。

日常の身の回りにあるモノの「中心」や「半分」に着眼した提案が多い中で、きらりと光る個性を提示した作品たちが入賞した中から、今回1作品が商品化されます。

**【切手用はがき】(ハガキ)**

美しいデザインが多い切手を主役に考える、切手用のはがき。

今まで端にいた小さな一枚の切手がこのはがきの中心となります。

送る相手を想いながら、切手選びを存分に楽しめます。

**<商品概要>**

- 商品名 : 切手用はがき (きってようはがき)
- 価格 : 500円・税別予定/3枚入り
- 賞 : 「Tokyo Midtown Award 2013」デザインコンペ 小山薫堂賞
- 販売元 : HILO
- 販売店舗 : HILO ONLINE SHOP/ 中川政七商店街(予定)
- 販売開始 : 2015年10月30日
- 素材(サイズ) : ハガキサイズ 100×148mm
- 作家 : 福嶋 健吾 (ふくしま けんご)



▲イメージ

会社員。2012年東京デザイナー学院プロダクトデザイン科雑貨デザイン専攻

**<作家コメント>**

切手を中心に考える、切手用のはがきです。今まで端にいた小さな一枚の切手がこのハガキの中心。ハガキを縦や横にする事でほとんどのサイズの切手を貼る事が出来ます。「この切手にしよう！」楽しみながら切手を選んでください。

**<審査員 小山薫堂 選考時コメント>**

ほんの少し視点を変えるだけで、その価値が大きく変わる・・・そういうデザインが個人的に大好きなのです。もしこれが商品化されたなら、郵便という制度に新しい価値が生まれるかもしれない。メールに慣れた世代にも郵便が新鮮に映るかもしれない。そう考えたらワクワクしてきて、迷わずこれを選びました。切手だけではなく、消印を主役にする、という考え方もできます。そうすれば旅先から自分も含めた誰かに手紙を書く、という行為がもっと楽しくなるかもしれません。

これまでの「Tokyo Midtown Award」<デザインコンペ>商品化の代表作をご紹介します。



**作品名 富士山グラス(フジヤマグラス)**  
**4,078 円(税込)**

鈴木 啓太  
Tokyo Midtown Award 2008 デザインコンペ  
水野学賞  
販売元:菅原工芸硝子株式会社

**デザイナーとして転機となった富士山グラスは 30 万個を超える**

Tokyo Midtown Award がきっかけで「富士山グラス」が商品化され、その後、審査員特別賞を贈っていただいた水野学さんと「THE」を設立しました。「THE」は水野学さんと中川淳さん(中川政七商店)と3人で、世の中の新たな定番となるような「THE」と呼べる商品づくりをモットーに商品開発をしており、今年で4年目。2013年に丸の内のKITTEにショップを出したのを皮切りに、今年は東京ミッドタウンの新店舗 ISETAN SALONE に「THE CORNER@isetan」をオープンしました。思えばずっと東京ミッドタウンと共に歩んでいます。



**鈴木 啓太 Keita Suzuki**

PRODUCT DESIGN CENTER、THE / ディレクター & プロダクトデザイナー。1982年愛知県生まれ。幼少の頃より骨董蒐集家の祖父の影響を受け、ものづくりを始める。2006年多摩美術大学を卒業後、(株)NEC デザイン、イワサキデザインスタジオを経て、2012年に、PRODUCT DESIGN CENTER を設立。



**作品名 歌舞伎フェイスパック**  
**2 枚入り 900 円(税込)**

小島 梢  
Tokyo Midtown Award 2008 デザインコンペ  
学生の部 準グランプリ  
販売元:株式会社一心堂本舗

**50 万個を超える大ヒット。2014 年のグッドデザイン賞も受賞**

Tokyo Midtown Award を受賞してから、6年越しでの商品化。普段は「商品」を売るための「広告」を作る立場にいるため、「商品」を開発する側に関わる、という、とても貴重な体験をさせていただきました。「歌舞伎フェイスパック」は自分の想像以上に様々なメディアに取り上げられ、良い意味で独り歩きし、普段自分が手がけている「広告」とは、全く異なった形で生活者の元へ広がって行きました。今の時代、「商品」自体の持つ力を、もっと強くする事も、新たな「広告」表現の一つなのかもしれないと、自分の仕事に対して、新たな見解を見出すきっかけとなりました。



**小島 梢 Kozue Kojima**

デザイナー、アートディレクター / 1984年愛知県生まれ/ 桑沢デザイン研究所屋間部卒業後、武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科に3年次編入し、卒業/ 同年、株式会社電通に入社。現在は株式会社電通中部支社に所属。  
歌舞伎フェイスパックでグッドデザイン賞 2014、2015  
ADFEST 2014、Spikes Asia 2014、D&AD 2014、AMES 2015 を受賞。

Tokyo Midtown Award 受賞作品 イベントとして開催

2013年のグランプリ作品はイベントとして開催するなど新たな取り組みも行っています。



**作品名 MID DAY(ミッド デイ)**

※2014年、2015年7月2日に開催  
bivouac  
Tokyo Midtown Award 2013 デザインコンペ  
グランプリ

**2014年に初開催したまん中の日、「MID DAY」。**

元旦から182日、大晦日まで同じく182日。7月2日は、一年のちょうどまん中の日です。とりわけ何でもない一日であったこの日を、「MID DAY(ミッドデイ)」と名付けて特別な日に見せたのは、「Tokyo Midtown Award 2013」デザインコンペでグランプリを受賞したデザイナー集団「bivouac(ビバーク)」。

7月2日を「一年のまん中を笑顔で祝う日に」というコンセプトのもと、これまでの半年を振り返り、これからの半年を想う一日にすることを提案しました。東京ミッドタウンでは、このコンセプトを活用しながら独自のイベントとして2015年も「MID DAY WEEK」を開催しました。



**bivouac (ビバーク)**

名前の由来は登山用語のビバーク(=雨ざらしの野宿)から。各自の得意分野のワクを飛び出して、アートディレクターを目指すために参加したセミナーで出会い、チームとなった。